

## 令和5年度

市教研テーマ「愛情と情熱を持って学び続け 未来を拓き 生き抜く力を育てよう」

道徳科研究部の研究テーマ

「自分らしさを大切にし、ともによりよく生きる子供を育む道徳教育  
～考え、議論する 道徳科の授業 を核に～」

### 1 テーマ設定の理由

学習指導要領総則に道徳教育の目標は、「自己の生き方（人間としての生き方）を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」とし、道徳教育が「社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている」と示されている。併せて道徳科の目標は、道徳教育の目標に向かうために、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と示されている。学習指導要領改訂から4年間、これらの目標に向けた道徳教育及び道徳科の実践を積み重ねてきた。

一方、令和3年3月には、中央教育審議会から『令和の日本型学校教育』の構築を目指して、～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～の答申が出され、一人一人の児童にとって最適な学び、多様な考えに触れながら自己の学びを深める協働的な学びがより求められるようになった。また、この数年でICTの活用がどの学校においても加速度的に進められ、授業の形態が多様化したり、学び合いの姿も様変わりしたりしてきたことは言うまでもない。

これまで取り組んできた、変化の激しい時代の中で、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供が自分自身の問題と捉えて向き合う「考え、議論する道徳科」の授業に、時代に求められるICT活用をはじめとする協働的な学びの視点も取り入れ、他者とかかわりながら自己を見つめ学びを深めていく実践を積み重ねることで、子供たちが、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていくと考えられる。

以上の点から、浜松市教育研究会のテーマ「愛情と情熱を持って学び続け 未来を拓き 生き抜く力を育てよう」を受けて、道徳科研究部の今年度の研究テーマを「自分らしさを大切にし、ともによりよく生きる子供を育む道徳教育～考え、議論する 道徳科の授業 を核に～」とし、浜松市が目指す子供の姿である「自分らしさを大切にする子供」「夢と希望を持ち続ける子供」「これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供」の具現を目指したい。

### 2 研究の視点

(1) 自己（人間として）の生き方についての考え方を深める道徳科の授業の工夫

- ・子供が道徳的価値を基に自己を見つめること（これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めること）ができるような工夫が大切である。
- ・道徳的価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通して考えたそのよさや意義、困難さ、多様さなどといった道徳的価値の理解を基に、物事を多面的・多角的に考えられるような工夫が必要である。
- ・児童生徒が道徳性を培うために振り返りを大切にする。また、評価は児童生徒自身が成長を実感できるようにするためだけではなく、教師の授業改善にも生かしていくことが求められる。

(2) 道徳科の授業を要とし、全教育活動を通じて行う道徳教育の充実

- ・道徳教育は、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行うことを基本として、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。その中で、道徳科は、各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割（補充・深化・統合）を果たすことから、全教育活動を通じて道徳教育の充実を図る。
- ・子供の道徳性をより一層豊かに育むためには、各教育活動での道徳教育がその特質に応じて意図的、計画的に推進され、相互に関連が図られることが重要である。また、道徳科において、各教育活動における道徳教育で養われた道徳性が調和的に生かされ、道徳科としての特質が押さえられた学習が計画的、発展的に行われるようにしなければならない。そのためには、全体計画や年間指導計画、別葉を活用していく必要がある。

(3) 個別最適な学び、協働的な学びの視点での道徳科授業づくりの工夫

- ・様々な考え方に触れ、多面的・多角的に捉えるためには、仲間同士の考えを伝え合いは不可欠である。ICTを始めとする様々なツールを活用することで個別最適な学び、協働的な学びに向けた実践を進める。

**【参考資料】**

＜「はままつマナー」の活用について＞

- ・単にマナーを形として教えるのではなく、見つめ、話し合い、考えて、マナーの大切さや必要性に気づき、実践する意欲や意思を高めていくように指導する。
- ・心の働きを促すために、章ごとに「考えてみよう」（小学校低学年）、「見つめてみよう」（小学校高学年）、「話し合ってみよう」（中学校）のコーナーが設けてあるので、授業の導入や終末など、学習展開の中で効果的に活用するようにする。
- ・道徳科の授業のみでなく、さまざまな場面で活用する。（例：保護者会や地域の人々との協議会の中で、学校・学年・学級通信の素材として、校内研修の資料として、全校集会や学年集会の話の中で）

＜「地域教材」等の開発や活用について＞

- ・各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要であるため、地域教材の開発や活用に努めている。
- ・主たる教材は教科書であるが、より効果があると考えられる場合には、自作教材等を活用することも可能である。その一つとして、文科省のホームページから「わたしたちの道徳」を利用することもできる。